

植物保護剤

農林水産省登録 第19687号

- 有効成分：炭酸水素ナトリウム…46.0%
無水硫酸銅…30.0%(銅として12.0%)
- 人畜毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

殺菌剤分類 NC, M1

有機農産物の 日本農林規格に適合した殺菌剤

サンケイ ジーファイブ水和剤

トマト・ミニトマトの葉かび病、すすかび病、野菜類のうどんこ病、白さび病、軟腐病に優れた効果。
他剤耐性うどんこ病菌にも安定した効果を発揮します。

トマト・ミニトマト・ピーマン・なすに
「常温煙霧」で使えるようになりました!



製品情報・SDS



近年問題となっている
サツマイモ基腐病
にも有効!!

〈無人航空機散布〉
も可能



サツマイモ基腐病



イチゴうどんこ病



トマトうどんこ病



トマト葉かび病



トマトすすかび病



トマト疫病



キュウリうどんこ病



ナスうどんこ病



メロンうどんこ病



スイカうどんこ病



カボチャうどんこ病



ピーマンうどんこ病



キュウリ灰色かび病



パセリうどんこ病



サトイモ疫病



チンゲンサイ白さび病



レタス軟腐病



バレイショ軟腐病



西洋ナシ輪紋病

カンキツかいよう病

特長

1. 各種作物のうどんこ病に優れた予防効果と治療効果があります。
2. レタスの軟腐病や腐敗病、パセリの軟腐病など防除困難な細菌性病害に予防散布で安定した効果があります。
3. 「植物保健薬」として、殺菌作用ばかりでなく、作物の栄養にもなる画期的な薬剤です。
4. 特異な作用機作から耐性がつきにくいと考えられます。また、他剤耐性菌にも安定した効果を発揮します。
5. 収穫前日まで使用できますので、毎日収穫する果菜類の殺菌剤として使いやすい薬剤です。
6. ミツバチに対する安全性が高い薬剤です。
7. 本剤は、有機農産物のJAS(日本農林規格)に適合した薬剤です。

適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	10a当り 使用液量(ℓ)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法
野菜類 (なすを除く)	白さび病、軟腐病	1,000	150~500	収穫前日 まで	—	散布
	うどんこ病	750~1,000				
きゅうり	斑点細菌病	750~1,500				
	灰色かび病、褐斑病 べと病	1,000				
トマト ミニトマト	疫病、葉かび病 すすかび病	800				
ピーマン	斑点病	1,000				
なす	うどんこ病	1,000~2,000				
	黒枯病	—				
レタス 非結球レタス	腐敗病	1,000				
ばれいしょ	疫病	15				
さといも						
かんしょ	基腐病	1,000	200~300			
こんにゃく	葉枯病	500	150~500			
ごま	うどんこ病、斑点細菌病	1,000	100~300			散布
せんぶり	さび病	—	150~500			
かんきつ	かいよう病	750~1,500	200~700			
西洋なし	輪紋病	500	—			

■常温煙霧

作物名	適用場所	適用 病害名	希釈倍数 (倍)	10a当り 使用液量(ℓ)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法
トマト ミニトマト ピーマン なす	温室、ガラス室、 ビニールハウス等 密閉できる場所	葉かび病 すすかび病 うどんこ病	20	10	収穫前日 まで	—	常温煙霧

上手な使い方

たっぷり・
ていねいに散布

本剤は病原菌と接触することにより優れた効果を発揮します。十分な量をしていねいに散布してください。

定期散布

うどんこ病の密度が高い時は、7~10日を目安に定期散布を心がけてください。但し過度の連用はさけてください。

薬液の調製方法

本剤は水中に沈みにくく、また少量の水で希釈すると発泡しますので、必ず所定量の水に本剤を攪拌しながら加えるよう、散布液の調製は下記の要領で行ってください。(発生する泡は炭酸ガスですので特に危険はありません)

1

散布に必要な水の1/2~全量を用意します。

2

一度に投入しない。
ゆっくりかき回しながらジーファインを少しずつ入れます。入れ終わった後も数分間ゆっくりかき回してください。

3

他の農薬と混用する場合は先にジーファインを調製した後に混用する薬剤あるいは展着剤等を投入し、かくはんしてください。

■使用上の注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきって下さい。
- 本剤は、水中に沈みにくくので所定量の水に少量ずつかくはんしながら加え、均一に分散させて散布液として下さい。
- 本剤は、病害の発生初期から予防的に散布して下さい。なお、多発生の場合は効果が劣ることがあるので、所定範囲の高濃度で使用して下さい。
- きゅうり、すいか、メロンに使用する場合、薬害が生じるおそれがあるので、幼苗期の散布はさけて中期以降に散布して下さい。
- きゅうり、すいか、メロンに使用する場合、高温時、極端な低温時及び湿潤状態が長時間続く場合の散布は、薬害の症状が激しくなることがあるのでさけて下さい。
- きゅうり、すいか、メロンに使用する場合、連続散布は葉の周辺が黄化したたり、硬化することがあるので、過度の連用をさけて下さい。
- レタスに使用する場合、高温時や結球開始以降の薬害が発生しやすい時期の散布では、炭酸カルシウム水和剤を加用して下さい。
- 非結球レタスに使用する場合、収穫葉展開以降の散布は汚れを生じることがあるので注意して下さい。
- パセリに使用する場合、生育が緩慢な時期には、汚れを生じることがあるので注意して下さい。
- チンゲンサイに使用する場合、収穫葉展開以降の散布は薬害を生じるので使用をさけて下さい。
- かんきつに使用する場合、薬害(スターメラノーズ)軽減のため炭酸カルシウム水和剤を加用して下さい。特に果実着生期の散布では厳守して下さい。
- かぶ、非結球アブラナ科葉菜類に使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
- さといもに使用する場合、葉の褐変、葉先の枯れなどの薬害が生じるおそれがあるので注意して下さい。
- 西洋なしに使用する場合、薬害軽減のため炭酸カルシウム剤(クレフロン)を加用(80倍)して下さい。
- 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節して下さい。
- 無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意事項を守って下さい。
 - ・散布は散布機種種の散布基準に従って実施して下さい。
 - ・散布に当たっては散布機種種の散布基準に適合した散布装置を使用して下さい。
 - ・散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行って下さい。
 - ・散布薬液の飛散によって動植物及び自動車やカラートタンの塗装等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意して下さい。
 - ・散布終了後、機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理して下さい。また使用後の空の容器は放置せず、適切に処理して下さい。
- ハウス等の常温煙霧用として使用する場合は次の注意事項を守って下さい。
 - ・専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧して下さい。特に常温煙霧装置の選定及び使用にあたっては、病害虫防除等関係機関の指導を受けて下さい。
 - ・作業はできるだけ夕方に行い、終了後は6時間以上密閉して下さい。
 - ・煙霧が直接作物体に当たると汚れが生じるおそれがあるので、施設上部に噴頭部を設置するなど、煙霧が作物体に直接当たらないよう措置をとって下さい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

■安全使用上の注意

- 誤飲、誤食などのないように注意して下さい。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせて下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けて下さい。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意して下さい。眼に入った場合には直ちに水洗い、眼科医の手当を受けて下さい。
- 散布液調製時及び散布の際は保護眼鏡、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して下さい。また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに洗顔して下さい。
- 常温煙霧中はハウス内へ入らないで下さい。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室して下さい。

■水産動植物への注意

- 水産動植物(魚類、甲殻類、藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用して下さい。
- 無人航空機による散布で使用の場合は、飛散しないよう特に注意して下さい。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないで下さい。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理して下さい。

■保管上の注意

- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管して下さい。また、吸湿しやすいので開封後長期間の保存はさけて下さい。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベル記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所に置かないでください。

このチラシの記載内容は2026年3月現在のものです。



サンケイ化学株式会社

本社 千891-0122 鹿児島市南栄2丁目9番地 ☎(099)268-7588
 東京営業部 千366-0032 埼玉県深谷市幡羅町1丁目13-1 ☎(048)551-2122
 大阪営業所 千532-0011 大阪市淀川区西中島2丁目14-6 ☎(06)6305-5871
 九州北部営業所 千841-0025 佐賀県鳥栖市曾根崎町1154-3 ☎(050)3508-7912
 宮崎事務所 千880-0056 宮崎県宮崎市神宮東3丁目6-19 ☎(0985)25-7051